20241109 道央　(札幌圏)

当事者と「共創」し就労支援

Meta Anchor社長
山田　邦生さん

はなし抄

■NPO法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク主催の学習会「ひきこもりの老いを考えよう」から（11月2日、札幌市）

大学院を出て、人材紹介会社で営業を担当しました。企業が採用活動の際に行う適性検査を見て「自分でも作れるのでは」と思い、心理学を学びながら職業適性検査の開発・提供会社「Meta Anchor（メタアンカー）」を立ち上げました。30歳からプログラミングを学び、そのスキルが現在のひきこもり当事者向け就労支援サービス「COMOLY（コモリー）」につながっています。

支援のきっかけは、大学卒業後に就職に失敗し、ひきこもるようになった同級生の存在です。彼には「どこでも働けるように」とプログラミング習得を勧め、現在では彼とともにコモリーを運営しています。

コモリーは、従来のアウトリーチ（訪問支援）ではなく、X（旧ツイッター）やYouTubeなどで発信し、当事者とつながりを持ちます。

在宅ワークの内容はアプリ開発、ウェブサイトや動画制作、データ入力など多岐にわたります。スキル向上のトレーニングとともに、これまで900件以上の在宅ワークを提供しています。

音楽部やゲーム部といったオンライン部活動やメタバース（仮想空間）での当事者会も運営しています。人は他者とつながり、コミュニティーに所属し、イベントに参加することで、自己肯定感が向上します。

9月末現在、コモリーの登録者数は1767人で、271人に仕事を依頼、48人が就業に結びつきました。例えば、大学受験に失敗し、ひきこもり歴20年の40代男性は、当事者会やワークキャンプに参加し、在宅ワークを経験。今は週4日、外で働いています。

コモリーでは、社会課題を当事者と解決するワークキャンプも実施しています。8月には石川県輪島市で農家の手伝いや、能登半島沖地震の被災者を対象にした縁日の手伝いをしてきました。数日間の共同生活をやり遂げたことで、自己肯定感を得られたようです。

過去の後悔や未来への悲観を気にせず、他人と比べることなく、今に集中することが自立には重要です。コモリーの運営は、単なる「支援」ではなく、当事者とともに創り上げる「共創」の姿勢で進めています。

（聞き手・鈴木雅人）

やまだ・くにお　1985年、静岡県裾野市生まれ。名古屋工大大学院修了。2016年、適性検査サービスなど提供する株式会社「Meta Anchor」を創業。20年に「COMOLY」を開始。東京都在住。

©北海道新聞社